

# 2021(令和 3)年度 事業報告

公益財団法人前川ヒトづくり財団

## I. 目的

この法人は、若年労働力の減少と長寿命化さらには労働期間が長期化する社会にあって、勤労者が生涯にわたり現役で活躍するための能力開発と、高齢者が長年の経験と工夫により蓄積した潜在能力を活用できる環境の研究とその普及をもって、勤労者の生涯現役の推進と失われつつある共同体の再建及び日本社会の活性化に寄与することを目的とする。

## II. 事業

この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 生涯現役に寄与する能力開発研究と生涯にわたる能力活用の場（ありよう）の研究の支援を目的とする助成。
  - (2) 生涯現役に寄与する能力開発と能力活用の場の普及・啓蒙を目的とする研修会の開催および情報の発信
  - (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業については、日本全国で行うものとする。

## III. 事業内容

1. 生涯現役につながる能力開発研究と能力活用の場の研究の支援を目的とする助成

### 1) 第3期(2020年度)研究助成事業の報告

#### ☆研究助成報告

第3期研究助成報告書は16名の助成者全員から提出期限の2021年5月31日(月)までに提出されました。第3期の研究はコロナ禍の影響をうけて、16名7,680千円の助成金に対して返金が6名834,201円ありました。

#### ☆研究助成報告会

第3期16名の研究助成報告はOn Lineにて2021年8月28日(土)、29日(日)の両日開催されました。当日は選考委員、理事、評議員の先生方からコメント・評価を頂戴し感謝申し上げます。

## 2) 第4期(2021年度)研究助成事業の報告

### ☆研究助成者の募集

第4期研究助成事業の募集は、2021年3月1日(月)の理事会で承認され、翌日に大学へ資料郵送、学会へWeb資料送付、ホームページへ掲載を行いました。

申請期間は4月1日(木)から4月24日(金)まででした。募集テーマは「生涯発達・生涯学習・生涯現役につながる能力開発と能力活用の場の研究」で、今回は応募制限として研究代表者の年齢を40歳までとしました。

申請は21名10,037千円でした。

### ☆研究助成者の選考、承認

2021年5月28日(金)にOn Line開催された選考委員会にて、8名が選考され、6月1日(火)On Line開催の理事会にて承認され、助成者8名、総額3,480千円の助成がスタートしました。今回の研究代表者の平均年齢は32.6歳で前回の44.1歳から11.5歳下がりました。

### ☆研究の締め切りと成果報告会

2022年5月31日(火)に成果報告書を締め切りました。このあと事務作業を進め8月27日(土)に成果報告会をON-LINE開催の予定です。

## 2. 生涯発達・生涯学習・生涯現役につながる能力開発と能力活用の場の普及・啓蒙を目的とする研修会の開催と情報の発信

### 1) シンポジウム(広く一般に情報発信する)

「第7回生涯現役社会の実現を考えるためのシンポジウム」を2022年3月9日(水)13時30分からON-LINE開催いたしました。閉会は16時でした。

テーマは「ライフステージにおける定年」でした。

初めにお二人の先生に講演をいただきました。はじめに「個人が定年退職に向けてどのように対応していくか」のテーマで神戸大学大学院齊藤誠一先生、次に「ミドル・シニア世代のキャリアの実態」のテーマで法政大学大学院石山恒貴先生でした。そのあと産総研を定年退

職ののち起業をされた岩田敏彰先生が参加され、3名の先生方でパネルディスカッションを行いました。テーマは「ライフステージにおける定年とは」でした。閉会は16時でした。

申込者は166で、参加者は主催者を除き105名でした。終了後のアンケートは68名から回答をいただきました。研究者と実体験者で進めるパネルディスカッションに大きな反響と暖かいコメントをいただきました。

2) ワークショップ（シンポジウム等の参加者との意見交換）

ON-LINE 開催の見通しが立たず、今年度は見送りました。

3) 季刊誌：プラチナニュース発行（財団活動の発信）

2021年8月に「研究成果報告書 2020年度」をプラチナニュースとして発行いたしました。

4) 大学や地方公共団体等からの講義や講演依頼

今年度はありませんでした。

3. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

その他事業の予定はありませんでした。

以上